

事例1 トンネル滑り台って楽しい！ 自分の思いに合わせて滑り方を選んで遊ぶ

3歳児10月

1学期から巧技台の滑り台で繰り返し遊び、十分に楽しんだことを踏まえ、保育者は新しい動きを引き出したいと考えた。そこで、滑り台の斜面にマットをかぶせてトンネル状にした「トンネル滑り台」を保育室に設置した。

いつもと違う環境に興味をもち喜んで関わる幼児が多く、背中を斜面に付けて仰向けで滑る、腹ばいになり手を伸ばして頭側から滑る、腹ばいになり足側から滑るなど、トンネルをくぐることができるような様々な滑り方を試していた。中には、トンネルの中をのぞいて「怖い」という幼児もいたが、腹ばいになり足側から滑ると、トンネル上部からのぞき込む保育者や友達の顔が見えることが分かり、安心した様子だった。保育者がそばで見守ったり、楽しさや面白さに共感する言葉を掛けたりしていると、怖がっていた幼児も「楽しい！」と言い始めた。自分の気に入った滑り方を何度もやってみたり、友達のしていた滑り方をまねてみたりして、繰り返し滑ることを楽しんだ。

この滑り台いつもと違う
ちょっと怖いな
でもやってみよう！

どうやって滑ったら
いいのかな

こういう滑り方があるんだな
私もまねして、滑ってみよう

滑るの楽しい！
もっとやりたい！

幼児のつぶやき・思い

保育者の援助・環境



幼児の興味を引き出し、
やってみようと思える
ような環境を設定する

安心して取り組めるよう
顔が見える位置で見守る

新しい滑り方や気に入った滑り
方を楽しむ様子を認める

遊びを通して育まれていること

知識及び技能の基礎

- ・いつもと違う滑り台の形を認識し、いつもの滑り方（座位）では滑れないことが分かる
- ・トンネルをくぐるような姿勢で滑る

思考力、判断力、表現力等の基礎

- ・トンネルを通り抜けることができる方法を考える
- ・自分の思いに合わせて滑り方を決める

遊びを通しての 総合的な指導

- ・初めての環境に興味をもって関わる
- ・怖さや不安を感じていても、友達の様子を見たり保育者に見守られたりする中で、自分からやってみようとする

学びに向かう力、人間性等

様々な体の使い方をして滑ることを楽しんでほしいと願い滑り台に工夫を加えたことで、幼児の興味を引き出し、幼児が自ら工夫したり、挑戦して滑ったりする姿につながった。怖がっていた幼児にとっては、顔が見える位置で保育者が見守ることで安心感を持ち、やってみることで楽しさを感じることができた。楽しさを感じることは「またやってみよう」という思いにつながり、繰り返し遊ぶ中で、動きのバリエーションが広がり、多様な体の動きを引き出すことにつながった。

A児とB児が砂場で、つなげた樋に水を流して遊んでいる。A児が流した水をB児がバケツで受けようとするが、樋がまっすぐつながっていないので、B児のバケツまで水が流れない。水の量、樋に流し込む水の速さなどを調節しながら何度も繰り返し楽しむ。樋の途中から水が漏れていることに気づき、近くにあった木の柱を使い、樋を調整して水を流すことができた。

幼児のつばやき・思い

保育者の援助・環境

こっちから水を流すよ

水が流れてきたらバケツに入れるね

あれ、水が流れてこないよ

樋の途中から水が漏れている

樋が曲がっているよ

木の柱を足したら樋がまっすぐになるかな

やったあ、成功したね

二人で樋のつなげ方を工夫している時間を保障して見守る

台に使いそうな物を出してみる

成功した喜びや達成感に共感する



遊びを通して育まれていること

知識及び技能の基礎

- ・水を流してみるが、なぜ下まで流れないのかに気付く
- ・樋をまっすぐにしたら水が流れるかもしれないことに気付く
- ・木の柱を足したらまっすぐになるかもしれないと予測する

思考力、判断力、表現力等の基礎

- ・B児のバケツまで水を流すために、水の流し方を何度も考えて試す
- ・樋の途中から水が漏れていることに気付く
- ・樋から水が漏れないようにするための方法を考える

遊びを通しての総合的な指導

- ・水がバケツまで流れなくても諦めずに何度も試してみようとする
- ・水をバケツまで流したいという共通の目的をもっている
- ・友達の考えを受け入れてやってみる
- ・成功した喜びや達成感を味わう

学びに向かう力、人間性等

樋を使って「水を流したい」という目的を友達と共有し、二人で水の流し方を伝えながら遊んでいた。その中で、思ったように水が流れず、流れるようにするにはどのように工夫すればよいのかなど、試行錯誤しながら遊びを続けている。「樋」という道具を使っていかに水が流れるようにするかを考える中で、物の仕組み、つなげ方などについて、友達同士で考えたり協力したりしながら、最後までやり遂げ達成感を味わうことができた。保育者は、幼児の様子を見守りながら、必要な物を近くに置いたり、幼児の驚きを受け止めたりしながらやり遂げた喜びや達成感に共感している。

事例3 ダンゴムシを飼育したい 大切なダンゴムシは何を食べる？ 5歳児5

二人の幼児が園庭で見つけたダンゴムシを保育室で飼育したいと保育者に言いに来る。保育者が大切な命であることを伝えると、世話をすることを約束し絵本で食べるものを調べたり、それ以外に何を食べるのかを考えたりする。保育者が「食べるかどうか試してみようよ、実験みたい」と言うと、毎日、ダンゴムシが食べそうなものを虫かごに入れ観察を続ける。保育者はその結果や変化を学級の中にも広げるように、写真やコメントで分かりやすく表示して掲示した。他の幼児も毎朝虫かごを確認し、食べるものを調べる。食べるエサについて幼児同士で話す姿も見られるようになった。

絵本には落ち葉を食べると書いてある
新聞紙はどうか

野菜は食べるかな

毎日一つずつ野菜を入れて試してみよう

昨日入れた野菜はどうなっているかな。ダンゴムシが食べているか見てみよう

この野菜はあまり減らないから
苦手なのかもしれない

この野菜は小さくなったから、
たくさん食べている
きっと好きなんだな

幼児のつぶやき・思い

保育者の援助・環境



生き物の命を大切にする気持ちを育めるように、保育室に幼児が見つけた虫を飼う道具やスペースをつくる

食べるかどうか、試し、確認する様子を見守る



毎日発見していることを学級の他の幼児にも伝えるように、写真やコメントで分かりやすく表示する

遊びを通して育まれていること

知識及び技能の基礎

- ・絵本を読み、ダンゴムシが落ち葉を食べることを知る
- ・かごに入れたエサの変化から、食べるものや食べないものが分かる
- ・自分の経験と重ね合わせ、ダンゴムシの好き嫌いについて考える

思考力、判断力、表現力等の基礎

- ・ダンゴムシが食べるものを予想し、試してみようとする
- ・考えたことを実践したり、言葉で伝えたりする

遊びを通しての総合的な指導

- ・見つけたダンゴムシに愛着をもつ
- ・考えたことをやってみようとする
- ・知りたいと思い、継続して観察する
- ・結果が分かり、更にやってみたいと取り組む
- ・友達と気付いたことを話す

学びに向かう力、人間性等

身近な生き物に興味・関心をもち、飼いたいという思いから、ダンゴムシのエサを調べ始めた。毎日様々なエサを入れて「食べる」「食べない」を見て判断し、予測・確認を繰り返した。保育者がそれを受け止め、状況と結果を写真と文字で分かりやすく表示したことで、学級の他の幼児も興味をもち、更に探究する面白さが広がり高まった。

A児、B児、C児が大事にしていた物が排水溝に落ちてしまったので、排水溝をのぞき込みながら、どうすれば取れるか話し合っている。A児が長い棒を使うがうまく取れない。他の幼児も集まってきて、水を入れて浮かべて取る、虫取り網を使うなど、これまでの経験から考えを出し合い、実際にその方法を試す。最後に棒を2本使って箸のように動かし何度もチャレンジする。最終的に、見守っていた保育者がその方法で取る。

どうしたら取れるかな

棒を使ったら取れるんじゃないかな…

そうだ！ 水を入れればいいんじゃない？ 浮かぶよ

虫取り網を使ったらどうかな 大きすぎて入らない…

棒を2本で挟んだら取れるかも。もう少しで取れそうでも取れない

幼児のつぶやき・思い

保育者の援助・環境



皆で様々に考えて取ろうとしている様子を見守る

たくさん考えて諦めないで頑張っている姿を認める 難しそうなので、子どもたちの考えた方法で手を貸して取る

遊びを通して育まれていること

知識及び技能の基礎

- ・これまでの経験からの知識を寄せ合い、道具を使って取ろうとする
- ・落とした物が水に浮くこと、水位を上げると手が届くと考えて取ろうとする

思考力、判断力、表現力等の基礎

- ・排水溝の中の物をどうすれば取れるのか、自分なりに考えて試す
- ・自分の考えたことを言葉で友達に伝え、一緒に試す

遊びを通しての総合的な指導

- ・落とした物が取れるまで、諦めずに繰り返しチャレンジする
- ・友達の様子に気付き、そばへ行き一緒に考える
- ・友達が大切にしている物がどうなったのが気になる
- ・友達の考えを受け入れ、一緒に試す

学びに向かう力、人間性等

排水溝に物を落としてしまったことから、幼児は、自分の経験や知識をもとに、どうしたらそこから取ることができるのかを考え、試行錯誤している。また、保育者が幼児の考えを大切に、自分たちでできるところを見極め見守ったことで、周りの幼児も友達の様子に気付き、よく見て考え、自分の考えを伝え合いながら協同して取り組むことができた。

A児はラップ芯でゆっくりと吹き、大きいシャボン玉を作っている。シャボン玉がテーブルに半球体で乗ったことを喜び、ラップ芯を差して息を吹き入れ、より大きくする。割れるとテーブルを手で拭い何度か繰り返す。B児がシャボン玉を人差し指で触ると割れる。A児も触ったが割れないことに驚き保育者に伝える。保育者も触ると割れない。他の幼児にも声を掛けて触らせ、割れる人、割れない人の違いを考え始め、手にシャボン玉液が付いている人は割れないようであると気付く。

ゆっくり吹いたら大きいシャボン玉ができた

B児ちゃんが触ったら割れた

A児も触ってみよう

なんで、A児ちゃんは割れないのかな

先生、B児ちゃんが触ったら割れたのに、A児が触っても割れないの

先生も触ったけれど割れないのはなんでかな

シャボン玉液が手に付いていると割れないんだね

幼児のつぶやき・思い

保育者の援助・環境



A児がシャボン玉の作り方を試している様子を見守る

繰り返しシャボン玉作りを楽しめるように、場や時間・材料を保障する

割れたり割れなかったりする不思議さに共感する

保育者も触って、考えるきっかけをつくる

友達と関わりながらシャボン玉の性質への気付きに共感する



遊びを通して育まれていること

知識及び技能の基礎

- ・ゆっくりと息を吹くとシャボン玉が大きくなることに気付く
- ・シャボン玉が割れずにテーブルの上に乗ることを知る
- ・シャボン玉液が手に付いていると、シャボン玉を触っても割れないことを知る

思考力、判断力、表現力等の基礎

- ・友達の様子を見て、自分も触るとシャボン玉が割れると予測して触ってみる
- ・シャボン玉を触っても割れる人と割れない人の違いは何かを考える

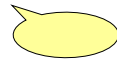
遊びを通しての総合的な指導

- ・自分が気付いたことを友達や保育者に伝え、関わりを楽しむ
- ・疑問に思ったことを解決しようとする

学びに向かう力、人間性等

シャボン玉が割れないように、ゆっくり吹くとよいことを遊びながら感じ、学んでいる。どのようなところにシャボン玉ができるのか、友達や自分や保育者がシャボン玉を指で触ったときに、割れたり割れなかったりする場面を見て不思議に感じ「なぜ？」と疑問をもち、追究していこうという意欲が高まっている。個別の探究となりがちなシャボン玉遊びであるが、自分一人だけの探究ではなく、友達や保育者と遊ぶ中で、より深くシャボン玉液の性質や遊びの面白さを感じる体験をしている。

二人でお化けになろうと、目玉や牙を作って自分の顔に貼っている。カーテンを引いて暗くすると「お化け屋敷だ」と、イメージをもち、互いにアイデアを出し合いながら、いろいろな素材の中から材料を選び、骨の絵を描いた黒ビニールを身に着けたりお化けの絵を描いて壁に貼ったりする。しかし、お客さんが来ないので、保育者の提案を受けて看板やチケット等を相談して作り始める。看板を見た他の幼児がお化け屋敷にやって来ると、二人はチケットを渡したりお化けになりきったりして、お客さんを驚かして楽しむ。



幼児のつぶやき・思い



保育者の援助・環境

暗くなったら
お化け屋敷みたい

これを使って
がいこつになろう

お客さんが
来ないね

看板を作ろう
チケットもある
といいよね



暗くなったらどんな
イメージが出てくる
か見守る

お化け屋敷のイメージが
膨らむように、いろいろ
な材料を出しておく



他の幼児にも分かる
ように、看板の作成
を提案してみる

遊びを通して育まれていること

知識及び技能の基礎

- ・ 作りたい物の材料を選び、イメージに合わせて自由に表現して作る
- ・ 作りながらこれまでの経験から、遊びに必要なものに気付く

思考力、判断力、表現力等の基礎

- ・ 友達とお化けになる、お化けになって動くことを楽しむ
- ・ 必要なことを自分なりに考えて相手に伝えたり、相手の考えを聞いて受け止めたりする

遊びを通しての
総合的な指導

- ・ お客さんを呼ぶために、自分の考えを相手に伝えたり、友達の考えを受け入れたりしながら協力して作ろうとする
- ・ 自分たちのやりたいことができた満足感を得る

学びに向かう力、人間性等

二人でお化けの表現を自由に楽しむ中で、友達と「お化け屋敷」のイメージをもつが、お客さんが来ないという課題を感じた。保育者の援助を得ながら、相手を意識した取組をし、より遊びが楽しくなるように考え工夫したことで「お化け屋敷」に来た他の幼児を喜ばせることができ、自分たちのやりたいことを実現することができた。

A児は、スチロールの船を作り、船の両側面に貼った割り箸に、牛乳パックで作ったスクリューを掛ける。他の幼児が作った船で遊んでいる大きな水槽の中で試す。スクリューは回るが、すぐに止まる。A児は「なんで私のだけうまくいかないんだろう」と言いながら、ゴムの本数が違うスクリューに付け替えて試す。水槽の途中まで進んだときに、近くにいた保育者が「できたね」「進んだね」と言うが、船が壁にぶつかって止まると「なんでうまくいかないんだろう」ともう一度試す。今度はうまく端まで進み「できた」とつぶやき、できたことを喜ぶ。「もう一度これでやってみよう」と、再び最初にうまくいかなかったスクリューに付け替えて試す。

スクリューが回るのに、なんですぐに止まるのかな

なんで私のだけうまくいかないんだろう

違うスクリューに変えたら進むかな

進んだけれど途中でぶつかっちゃった

できた

もう一度これでやってみよう

幼児のつぶやき・思い

保育者の援助・環境



友達の様子を見て考えている姿を見守る

A児が工夫している時間を保障して見守る



諦めずに何度も試す姿を見守る

成功した喜びや達成感に共感する

遊びを通して育まれていること

知識及び技能の基礎

- ・スクリューの中央に輪ゴムを貼ることが分かる
- ・目視で、だいたいの船の中央が分かる
- ・スクリューをゴムが戻らないように手で回す
- ・巻いたゴムが戻るときに船が進むことが分かる

思考力、判断力、表現力等の基礎

- ・船がうまく進む理由、うまく進まない原因を考える
- ・コツをつかむと、うまく進まなかったスクリューでも、再度、試してみようとする

遊びを通しての総合的な指導

- ・「こうしたい」という目的に向けて、試行錯誤したり、諦めずに何度も挑戦したりする
- ・友達の船みたいに自分の船も進むようにしたいとやってみる

学びに向かう力、人間性等

船作りの過程において、水に浮かべても丈夫な素材は何か、ゴムやスクリューはどのような仕組みで動くのかを学んでいる。友達の様子が刺激となり、なかなかうまく進まないけれど諦めずにやってみようという意欲をもって繰り返し試し、最後まで根気よく取り組み達成感を味わった。さらに、次の目的を達成したい気持ちを持っている。

事例8 米栽培を通して鳥害対策や籾の中の育ちなどを 考えたり調べたりして取り組む

5歳児10月

春から子どもたちが育てているバケツ稲に穂が出たが、スズメが出現し、米を食べている様子が見られた。米を守るために、これまでの経験や図鑑・タブレットで調べた知識をもとに、ネットを張ることを考える。ネットの大きさや張り方を考え、友達と力を合わせて張る。しかし、すでに食べられたものが多く、収穫したが中身が入っているか心配になった子どもたちは、次に、中身を確認するための方法を調べ、考える。「水に浸けて浮いたら中身がない」「光に当てて透けたら中身がない」という二つの方法を調べ出し、提案し、実際に試す。その結果、ほとんどの籾に中身がないことが分かり、農家の大変さを実感する。

お米が食べられないための方法はあるかな？

タブレットで調べた方法でやってみよう！

お米を作ることは大変なことなんだね



幼児のつぶやき・思い

保育者の援助・環境

スズメ対策をどのように考えるのかを見守る

調べることのできるタブレットや図鑑を保育室に置いておく

育てることの大変さを感じることができるよう言葉を掛ける

遊びを通して育まれていること

知識及び技能の基礎

- ・ 稲の生長やスズメに実を食われていることに気付く
- ・ これまでの栽培経験から鳥害を防ぐ方法を考え（ネットを張る）実践する
- ・ 図鑑・タブレットから必要な情報を得る

思考力、判断力、表現力等の基礎

- ・ タブレットを使って鳥害を防ぐための、ネットの大きさや張り方を考える
- ・ 友達と力を合わせてネットを張る
- ・ 経験や図鑑から得た知識から籾の状態を確認するための方法を考え、言葉で伝え合い、試す（水に浸ける、光を通すなど）

遊びを通しての総合的な指導

- ・ 課題に対して友達と考えを出し合い、解決しようとする
- ・ 体験を通して、米を育てることや農家の大変さを実感する

学びに向かう力、人間性等

自分たちが育てた稲をどのように守るかを試行錯誤して調べ、鳥害を防ごうとした。そして、実際に守ることができたのかどうかの検証をどのように行うかまで考え、実践した。この体験を通して米を育てる大変さを実感し、農家の方への感謝の気持ちが育まれた。

事例9 ドングリ転がしのコース作り

5歳児10月

3人で、壁にペーパー芯を貼り付けてドングリを転がすコース作りをしている。カーブでドングリが飛び出してしまう様子を見て、ペーパー芯の角度を変えたり、隙間を埋めるために小さな空き箱やカップなど選んで付けたりしている。試すがうまくいかない。新たにペーパー芯を傾け「ガードレールみたいにしても」と壁のように貼り付ける方法を思い付き、試すとうまくいった。3人は飛び上がって喜び合った。

あれ、飛び出しちゃうね

ここをもう少し横にしてみたら？

ここに箱を切って貼ろう

ガードレールみたいにするのはどう？

やったあ、うまくいったね

幼児のつばやき・思い

保育者の援助・環境



3人でじっくり取り組める場と時間を保障する

諦めず繰り返し試せるよういろいろな材料を使えるようにする

3人で考えを出し、伝え合っているのを見守る

3人の満足感に共感する

遊びを通して育まれていること

知識及び技能の基礎

- ・ペーパー芯を傾けて貼ることで、ドングリが転がることに気付く
- ・様々な用具を使いながら、ペーパー芯や空き箱を必要な形に切ったり貼ったりする

思考力、判断力、表現力等の基礎

- ・ドングリがコースから飛び出さないように考え、様々な方法を試す
- ・コースの壁をガードレールに見立てて表現し、友達とイメージを共有しようとする
- ・自分の考えを言葉で周りの友達に伝える

遊びを通しての総合的な指導

- ・自分の考えを相手に伝えたり、友達の考えを受け入れたりしながら協力して作り、達成感を味わう
- ・うまくいなくても諦めずに何度も取り組む

学びに向かう力、人間性等

3人は課題を共有し、それぞれの考えを伝え合い試した。試した結果を受け止めて、さらに考えを深め挑戦を続けることで、課題を達成することができた。困難なことも諦めずに、友達と一緒に乗り越え達成感を味わった経験は、3人の自己肯定感を高め、自信となった。

園庭のユズに実がなり、収穫に意欲をもやす5歳児。収穫したユズの数を見て4歳児にもあげたくなる。すると、A児とB児が廊下の顔写真を数え、全園児数が64人（5歳児は38人）であることが分かり収穫した40個では足りなかった。保育者に5歳児組だけでいいのでは？と提案され、もう一度5歳児の写真の人数を数え直し、5歳児の人数が38人であることを確かめた。そこで、余った2個のユズを二人の保育者の分にするのがよいと考える。

幼児のつばやき・思い
 保育者の援助・環境

たくさん採れた！
いくつあるのか
どうしたら
数えられるかな？

どのように数える
のか見守る

全員の数を伝えたら早い
が、どうやって数えるか、もう少
し様子を見守る



幼稚園の
みんなの分は
あるのかな

自分たちで数を数えたり、
分類したりすることが、しやす
くなるように、机を近くに置いて
おく

玄関に、みんなの
写真があるよね！
行って数えてみよう！



みんなの数があるか
ユズの数をもう一度
数えてみよう

みんなの数、足りないね
どうしようか

遊びを通して育まれていること

知識及び技能の基礎

- ・収穫した実の数を数え方、自分たちで工夫して数える

思考力、判断力、表現力等の基礎

- ・一人一つの実を持ち帰るためには、人数と同じ数の実が必要だと考える
- ・友達と一緒に実の数を数え、同じ数になるかを確認する
- ・全体の園児数を知る方法を考え、数える

遊びを通しての
総合的な指導

- ・他学年にも分けてあげたい気持ちをもつ
- ・余った実をどのようにすればよいかを考え、保育者分にしよと思いつく

学びに向かう力、人間性等

収穫したユズの数では4歳児のユズが足りないことからどうしたらよいか考えた。5歳児の人数とユズの数や何度か数えるなど、数の数え方や人数の数え方、数を比べるなど、それらが分かる方法などを自分たちで考え、使う力が育まれた。